

# 日本語研修コース報告 (2014年4月～2015年3月)

田中 信之

## 1 はじめに

大学院入学前予備教育日本語研修コースは、主として、文部科学省によって配置される大使館推薦国費研究留学生および教員研修留学生を対象とした日本語集中コースで、毎年4月と10月に開講し、各期15週間75日のコースを提供している。1999年10月に富山大学国際交流センターの前身である留学生センターが開設され、第1期日本語研修コースが開講した。2013年10月に留学生センターが改組、国際交流センターが設置され、2015年3月には第31期生を送り出した。富山大学に配置される国費研究留学生・教員研修留学生の数は少なく、受講定員に余裕があるため、2000年10月開講の第3期日本語研修コースからは、学内公募を実施して、大学推薦国費研究留学生や私費研究生等も受け入れている。本稿では、2014年4月から開講した第30期と同年10月から開講した第31期について報告する。

## 2 受講者

第30期は、大使館推薦の国費研究留学生が1人、学内公募による私費留学生3人が受講した。私費留学生のうち1人が卒業試験のため帰国し、修了できなかった。第31期は、文部科学省によって配置された国費教員研修留学生3人、学内公募による私費留学生5人が受講・修了した。受講・修了者は表1の通りである。

表1 日本語研修コース受講・修了者 (第30期・第31期)

期	名 前	国 籍	指 導 教 員
30	エンドリ ラマ	アルバニア	富山大学 チャピゲンツイ 教授
	宋 双 宝 (ソウ ソウホウ)	中 国	富山大学 唐 政 教授
	宋 双 玉 (ソウ ソウギョク)	中 国	富山大学 唐 政 教授
31	アムズ フィロメナ アイエレ ジファ	ガ ー ナ	富山大学 若山 育代 准教授
	ポウ イシュマエル ジョウ クワジョ	ガ ー ナ	富山大学 松本 謙一 教授
	マルチンス ドス サントス ナガオ ブレナ カルラ	ブ ラ ジ ル	富山大学 米田 猛 教授
	孟 婷 婷 (モウ テイテイ)	中 国	富山大学 倉光 英樹 教授
	楊 詩 語 (ヨウ シゴ)	中 国	富山大学 龍 世祥 教授
	王 緯 甲 (ワン イジャ)	中 国	富山大学 馬 駿 教授
	于 洋 (ウ ヨウ)	中 国	富山大学 唐 政 教授
肖 蓓 蓓 (ショウ バイバイ)	中 国	富山大学 唐 政 教授	

## 3 コース担当者

センター専任教員4人(副島健治, 田中信之, バハウ サイモン ピーター, 濱田美和)と、非常勤講師9人(飯野玲子, 加藤敬子, 高島智美, 中河和子, 永山香織, 藤田佐和子, 松岡裕見子, 山本百合子(第31期のみ), 横堀慶子)が授業を担当し、田中信之がコースのコーディネートをを行った。

## 4 コーススケジュール

第30期は、2014年4月9日(水)に開講式、同年9月26日(金)に修了式を、第31期は、2014年10月7日(火)に開講式、2015年3月3日(火)に修了式を行い、どちらの期も15週間75日の集中授業を

行った。各期の主なスケジュールは以下の通りである。

#### 4 コーススケジュール

第30期は、2014年4月9日（水）に開講式、同年9月26日（金）に修了式を、第31期は、2014年10月7日（火）に開講式、2015年3月3日（火）に修了式を行い、どちらの期も15週間75日の集中授業を行った。各期の主なスケジュールは以下の通りである。

##### <第30期>

2014年 4月4日（金）	学内公募選考
4月8日（火）	コースオリエンテーション、挨拶の練習、ひらがな
4月9日（水）	開講式
4月10日（木）	授業開始
6月7日（土）～6月8日（日）	ホームステイ
6月20日（金）	スタディー・エクスカージョン（富山市民俗民芸村）
6月27日（金）	「私の国」発表会
7月29日（火）	授業終了
7月30日（水）～8月4日（月）	スピーチ練習、文集作成
8月5日（火）	スピーチ発表会（「私の専門」発表会）
9月26日（金）	修了式

##### <第31期>

2014年 10月3日（金）	学内公募選考
10月6日（月）	コースオリエンテーション、挨拶の練習、ひらがな
10月7日（火）	開講式
10月8日（水）	授業開始
11月21日（金）	スタディー・エクスカージョン（富山市民俗民芸村）
12月13日（土）～14日（日）	ホームステイ
12月19日（金）	「私の国」発表会
12月24日（水）～2015年1月5日（月）	冬季休業
2015年 2月10日（火）	授業終了
2月12日（木）～18日（水）	スピーチ練習、文集作成
2月19日（木）	スピーチ発表会（「私の専門」発表会）
3月3日（火）	修了式
3月9日（月）～27日（水）	補習

#### 5 コース内容

授業は月曜日から金曜日まで1日4コマで、日本語と日事情、コンピュータを中心とした内容で行った。第30期より、初級クラスでは科目名と授業内容に変更があった。従来の「読解・作文」は、スピーチ発表会（5.5.2参照）に向けた準備を行うこともあり、読解練習を行う余裕がなかった。そこで、授業名を「語彙・作文」とあらため、『みんなの日本語』の語彙復習や短作文作りなどを行うこととした。それに合わせて、従来の「語彙・表現」は「読解・作文」とあらため、レベルに合った文章を読んだり、書いたりする練習を行うこととした。

初級クラスの「文法」10コマ中8コマと「読解・作文」「聴解」「文字・漢字」「会話」各1コマの合

計12コマ、および、中級クラスの「文法」10コマと「漢字」「聴解」「会話」各1コマの合計13コマは日本語課外補講の授業と合同で開講される授業である。通常の授業の他に、学生の個人の習熟度やニーズに合わせた指導を行うために、特別指導も行った。コース後半からは、専門課程への橋渡しの教育として、自分の専門についての口頭発表とレポート作成を行う「私の専門」プロジェクトも課した。

第30期は、中級レベルの受講者がおらず、初級レベルの受講者のみであった。第31期は、受講者を日本語能力に応じて初級と中級の二つのレベルに分けて授業を行った。しかし、初級の教員研修留学生2人が授業についていけなくなったため、11月6日(木)より、専任教員と新規に採用された非常勤講師による特別クラスを開講することになった。さらに、正規の授業が終了したが、人間発達科学部の授業を受講できる日本語のレベルに達することができなかつたため、春季休業期間中(平成27年3月9日～3月27日)に補習クラスを開講した。補習は専任教員1人と非常勤講師2人が対応した。表2、3に第30期、第31期の時間割を示す。

## 5.1 時間割

表2 第30期日本語研修コース時間割

	1 (8:45~10:15)		2 (10:30~12:00)		3 (13:00~14:30)		4 (14:45~16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法 (加藤)	文法A (高島)	文法 (加藤)	文法A (高島)	読解・作文 (加藤)	漢字 (濱田)	特別指導 (濱田)	特別指導 (田中)
火	文法 (田中)	文法C (濱田)	文法 (田中)	文法C (濱田)	聴解 (藤田)	読解 (田中)	コンピュータ (濱田)	
水	文法 (高島)	文法A (中河)	文法 (高島)	文法A (中河)	文字・漢字 (中河)	会話 (横堀)	日本事情 (バハウ)	
木	文法 (永山)	文法B (副島)	文法 (永山)	文法B (副島)	コンピュータ (田中)	聴解 (飯野)	語彙・作文 (飯野)	コンピュータ (濱田)
金	文法 (飯野)	文法B (松岡)	文法 (飯野)	文法B (松岡)	会話 (松岡)	作文 (田中)	特別指導 (田中)	特別指導 (濱田)

※網かけのクラスは日本語研修コース専用クラス、それ以外は日本語課外補講との合同クラスである。

表3 第31期日本語研修コース時間割

	1 (8:45~10:15)		2 (10:30~12:00)		3 (13:00~14:30)		4 (14:45~16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法 (加藤)	文法A (高島)	文法 (加藤)	文法A (高島)	読解・作文 (加藤)	漢字 (濱田)	特別指導 (濱田)	特別指導 (田中)
火	文法 (田中)	文法C (濱田)	文法 (田中)	文法C (濱田)	聴解 (藤田)	読解 (濱田)	コンピュータ (田中)	
水	文法 (高島)	文法A (中河)	文法 (高島)	文法A (中河)	文字・漢字 (中河)	会話 (横堀)	日本事情 (バハウ)	
木	文法 (永山)	文法B (副島)	文法 (永山)	文法B (副島)	コンピュータ (濱田)	聴解 (飯野)	語彙・作文 (飯野)	コンピュータ (田中)
金	文法 (飯野)	文法B (松岡)	文法 (飯野)	文法B (松岡)	会話 (松岡)	作文 (田中)	特別指導 (田中)	特別指導 (濱田)

※網かけのクラスは日本語研修コース専用クラス、それ以外は日本語課外補講との合同クラスである。

## 5.2 日本語科目

基本的な日本語文法を習得し、運用できるようになること、文字についてもひらがなやカタカナ、基本的な漢字を習得することを目的として授業を行った。

また、独自開発教材を用いて、正しい日本語の発音を身に付けるための指導も行った。

[使用テキスト] (主なもののみ)

<初級クラス>

- |       |   |
|-------|---|
| 文法    | 『みんなの日本語初級 I, II』(スリーエーネットワーク)<br>『みんなの日本語初級 I, II 書いて覚える文型練習帳』(スリーエーネットワーク)<br>『毎日の発音練習』(独自開発テキスト)                               |
| 聴解    | 『みんなの日本語初級 I, II 聴解タスク25』(スリーエーネットワーク)<br>『わくわく文法リスニング99』(凡人社)<br>『絵とタスクで学ぶにほんご』(凡人社)<br>『にほんごきいてはなして』(ジャパントイムズ)<br>『楽しく聞こう』(凡人社) |
| 読解・作文 | 『みんなの日本語初級 I, II 初級で読めるトピック25』(スリーエーネットワーク)<br>『みんなの日本語初級 やさしい作文』(スリーエーネットワーク)  |
| 文字・漢字 | 『漢字だいじょうぶ!』(ココ出版)   |

<中級クラス> (第31期のみ該当)

- |      |  |
|------|--|
| 文法 A | 『J. Bridge』(凡人社)   |
| 文法 B | 『日本語中級 J301』(スリーエーネットワーク)<br>『日本語中級 J501』(スリーエーネットワーク)     |
| 文法 C | 『中級へ行こう』(スリーエーネットワーク)                                      |
| 漢字   | 『INTERMEDIATE KANJI BOOK VOL. 1』(凡人社)                      |
| 読解   | 『たのしい読みもの55 初級&初中級』(アルク)                                   |
| 聴解   | 『新・毎日の聞きとり50日 上』(凡人社)<br>『聞いて覚える話し方 日本語生中継・初中級編 1』(くろしお出版) |
| 作文   | 『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』(スリーエーネットワーク)                       |

## 5.3 日本事情

学内から国際交流学生ボランティアとして募集した日本人学生との交流・活動を通して、日本社会について学び、さらには習得した日本語を実際に使う機会を提供する。

また、留学生と日本人学生が共に自国の言語や文化に対する関心を高め、異文化を理解し、異文化コミュニケーション能力を養うことを目指す。

## 5.4 コンピュータ

この授業では、留学生が日本語環境でコンピュータの基本的な操作をすることができ、ひらがなやカタカナ、さらに漢字なども使って、正しい日本語の入力ができるようになることを目指す。また、あわせて、大学での勉学に必要な基本的な情報リテラシーの習得も目指している。

日本語のコンピュータ用語には漢字語やカタカナ語が多いために難解であったり、入力においても促音や拗音といった特殊音の入力が難しいなど、外国人が日本語環境のコンピュータを用いる際に特有な問題があるが、この授業ではそれを克服できるように指導することが大きな目的である。また、専門課

程での勉強に備えて、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを使えるようになることも目指し、同時に日本語での電子メールの書き方、インターネットの使い方、およびそれに付随する著作権やセキュリティ対策などについても指導を行った。

[参考テキスト] 『日本語でできる！外国人のためのパソコンのきほん』（スリーエーネットワーク）

## 5.5 口頭発表プロジェクト

### 5.5.1 口頭発表プロジェクト

日本語研修コースに在籍する留学生は、そのほとんどが大学院へ進学する予定の学生であり、コースが始まって半年後にはそれぞれの専門課程に進んで専門の勉強や研究を始めなければならない。教員研修留学生についても、このコースが終わると、教育に関するさまざまな授業を日本語で受けなければならないし、授業見学を通じて現場の教員とのやりとりが必要となる場面も多い。本コースでは、留学生が日本の大学院での研究活動を効率的に進められるように、スピーチ発表会で自分の専門の内容を簡単に説明する口頭発表を行い、さらにレポートにまとめるというプロジェクトを学生に課している。学生それぞれの留学目的に合わせて、大学院進学予定の学生はこれまで自国で研究してきた内容と富山大学で研究したい内容について、教員研修留学生は自国の教育制度の説明と富山大学で学びたい内容について、それぞれ原稿とスライドを作成してスピーチ発表会で発表し、レポートにまとめるというプロジェクトである。この活動は、一般日本語、コンピュータ、そして専門の学習が一体となって行われるものである。

具体的には、留学生は自分の専門について、専門用語を調べたり、必要な情報をインターネットなどから得たり、あるいは必要に応じて所属研究室の指導教員や学生に質問したりした上で、作文の時間に発表原稿を作成し、コンピュータの時間にプレゼンテーションソフトを使用してスライドを準備した。その後練習を重ね、最終的には、コース修了前に開催されるスピーチ発表会で、作成したスライドを示しながらプレゼンテーションを行った(5.5.2 参照)。さらに、学生は発表原稿をもとにしてレポートを作成した。学生の作成したレポートは、第30期、第31期のものをまとめ、日本語研修コース修了レポート集『らいちょう』として発行した(5.5.3 参照)。

### 5.5.2 スピーチ発表会

スピーチ発表会は、第30期は2014年8月5日(火)に、第31期は2015年2月19日(木)に、それぞれ午後1時半より開催した。第30期は18人、第31期は29人の出席者があった。出席者は富山大学の留学生および日本人学生、学生の指導教員やセンターに関係のある教員、学生のホストファミリー、学務部学生支援グループ留学支援チーム職員などである。

留学生は、発表会に向けて、指導教員、同じ研究室の先輩留学生、日本人学生に協力してもらいながら熱心に準備を進めた。発表会に向けた準備は、語彙・作文とコンピュータの授業の中で行ったほか、4人の国際交流センター教員がそれぞれ分担した学生に対して、授業時間以外にも原稿チェック、発表練習などの指導を行った。

### 5.5.3 修了レポート集作成

スピーチ発表会で口頭発表を行った原稿をもとにレポートを作成し、修了レポート集『らいちょう』として発行した。留学生は各自の専門についてのレポートを作成したほか、それぞれの期の中表紙、寄せ書き、写真のページなどを共同で作成した。各自の能力を発揮し、話し合いを進めながら、コンピュータの授業で学んださまざまな文書の作り方などを能率良く活かし、完成度の高い文集を作り上げた。

## 6 成績評価

初級クラスでは、メインテキスト（『みんなの日本語』）に基づく定期試験を7回実施した。この定期試験は、筆記試験（文法、作文、読解）、聴解試験、会話試験から構成されるものである（第31期は特別クラスが編成されたことにより、筆記試験と聴解試験を行い、会話試験は行わなかった）。また、「語彙・表現」「文字・漢字」のクラスでは期末試験を実施した。中級クラスでは、「文法A」・「文法B」・「文法C」においてテキストに基づく定期テストを実施した。また、「聴解」「漢字」のクラスではそれぞれ期末試験を実施した。

口頭発表プロジェクトについても、原稿と発表会当日の発表を教員が採点し、プロジェクトの成績を出した。コース修了時に、定期試験、その他の試験、口頭発表プロジェクトの成績を総合して、コース全体の成績判定を行い、コースへの出席率も含めた成績表を作成して、受講者本人と指導教員へ通知した。

## 7 コース評価

日本語研修コースでは、コース改善に役立てるため、学期終了時にアンケート調査を実施している。実施前に、成績等には全く影響しないことを伝えた上で、アンケート調査票に記入してもらった。調査項目はコース全体、日本語の授業の内容、テスト、宿題、コンピュータ授業、特別指導、スタディ・エクサカーション、ホームステイ、日本事情、口頭発表プロジェクトの11項目である。回答方法は、5段階で評点をつけるものと、与えられた選択肢から該当する答えを選択するものとがある。また、自由意見は日本語または英語で記入させた。

それぞれの期の結果を表4、表5に示す。自由意見については、英語で書かれたものは日本語に翻訳して、日本語の誤りがあるものは訂正して掲載する。翻訳・訂正ともにコーディネーターの判断によって行っている。

表4 第30期コース評価

質問及び回答結果 (5段階評価の場合は点が高いほどよい評価であることを示す)	自由意見
<b>(コース全体)</b> コースは役に立ったか： 4.7 スケジュールはどうだったか： 忙しい2人、ちょうどいい1人 日本語は上達したか： とても上手になった1人、上手になった2人	<ul style="list-style-type: none"> <li>このコースはとても役立った。日本語能力の向上に役立った。ただ、コースのスケジュールはきつくて、研究生である私にとって、とても難しかった。</li> <li>日本語コースはとてもよいですから、ほかの意見がありません。</li> </ul>
<b>(日本語の授業)</b> 授業はどうだったか： 4.7 教科書はどうだったか： 『みんなの日本語』 4.3 『毎日の発音練習』 4.3 『漢字だいじょうぶ!』 4.0 ハンドアウトはどうだったか： 4.7 教師の教え方はどうだったか： 4.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書はよかった。漢字の教科書は難しい語を説明してくれる英語があったほうがいい。</li> <li>授業がもっと速いほうがいいです。</li> </ul>
<b>(テスト)</b> テストはどうだったか： 文法テスト 4.7 聴解テスト 5.0 会話テスト 5.0 テストは多かったか： 多い1人、ちょうどいい2人	<ul style="list-style-type: none"> <li>ときどき、とても難しいテストがある。ヨーロッパや他の国から来た留学生にとって、レベルにあったテストがあったほうがよかった。</li> </ul>

<p>(宿題) 宿題はどうだったか：4.7 宿題は多かったか： 多い1人，ちょうどいい1人，少ない1人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•宿題の量はOK だと思う。</li> <li>•ちょっとおおければ大丈夫です。</li> <li>•先生が作る宿題があったら。</li> </ul>
<p>(コンピュータ授業) 授業は役に立ったか： 4.7 テキストはどうだったか： 5.0 教え方はどうだったか： 5.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•コースはじめての授業では練習が多すぎた。しかし，コンピュータで日本語を使用するのはとても役立った。</li> </ul>
<p>(特別指導) 特別指導はどうだったか： 5.0 特別指導は多かったか： ちょうどいい3人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•とても役立った。</li> </ul>
<p>(スタディ・エクスカージョン) 見学は楽しかったか： はい3人 見学場所は適当だったか： はい3人 見学の時期は適当だったか： はい3人</p>	<p>何が楽しかったか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•訪問した場所：異なる友達と話ができたこと。日本文化に関する知識が得られたこと。</li> <li>•日本の昔の文化を理解しました。</li> <li>•日本人の古い生活は面白かったです。</li> </ul> <p>その他：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•すべての古い家や資料館を見学する時間がなかったため，宿泊し，その場所を楽しむことができればよかった。</li> </ul>
<p>(ホームステイ) ホームステイは楽しかったか： はい3人 時期は適当だったか： はい3人</p>	<p>何が楽しかったか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•とても良い家族。日本文化の理解に役立った。とても楽しかった！</li> <li>•おいしい料理を食べて，旅行に行きました。</li> <li>•日本人の日常生活をみたあとで，日本の文化がもっとわかります。</li> </ul>
<p>(日本事情) 日本人と一緒に勉強するのはどうだったか：  日本の文化を知らなければならないと思うか： 思う3人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•日本人学生と勉強するのはとてもいい。とても役立った。</li> <li>•楽しかったです。たくさんいろいろな国の友達できました。</li> <li>•楽しかったです。日本の学生はよく日本語を使うので，とても役に立ちます。</li> <li>•私は日本にいますから，日本の文化をしらなかつたら，困ります。</li> <li>•日本は礼がある国で，とてもいいです。そして，日本に来たら，日本文化に慣れたほうがいいです。</li> <li>•とても必要だと思う。私の場合，日本に来る前に日本文化について読まなかった。それで，ときどき異なる場面で，不快に感じるがあった。できるだけ知っていれば，私たちの行動は日本人と同じようになる。</li> </ul>

<p>(口頭発表プロジェクト)</p> <p>プロジェクトはたいへんだったか： たいへん3人， 発表会は役に立ったか： 4.7</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• とてものしいです。発表会するとき、質問を簡単にしたらいいです。</li> <li>• 多くの難しい単語があって、準備するのがたいへんでした。発表練習するのに、少なくとも1週間ぐらいかかりました。最終的に発表は成功しました。ありがとうございました！</li> </ul>
<p>(その他)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全般的にコースはよかった（とても長いスケジュールで、1週間にたくさんの課があり、進度がとても速いことを除いて）。ヨーロッパの学生である私にとって、毎日研究室へ行くこともあって、とてもハードだった。ややストレスが多かったが、最初に比べると、日本語能力の向上は大きかったと思う。忍耐強く教えてくださった先生方、本当にありがとうございました。</li> <li>• 日本語研修コースはとてもいいです。楽しくて、役に立ちます。</li> </ul>

表5 第31期コース評価

<p>質問及び回答結果 (5段階評価の場合は点が高いほど よい評価であることを示す)</p>	<p>自由意見</p>
<p>(コース全体)</p> <p>コースは役に立ったか： 5.0 スケジュールはどうだったか： 忙しすぎる2人，忙しい3人， ちょうどいい3人 日本語は上達したか： とても上手になった2人，上手になった2人， 少し上手になった4人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 先生の教え方はとてもよかったと思います。</li> <li>• コースは役に立ちます。中級のコースも申し込みたいです。</li> <li>• 日本語研修コースがとてもいいです。活動がたくさんあります。おもしろいです。いろいろなことを習いました。でも、いそがしくて、つかれました。</li> <li>• コースは役に立たなければならない。日本へ来る前に日本語をぜんぜん話せません。今少し話せます。</li> <li>• 先生はみんな親切です。どうもありがとうございます。</li> <li>• このコースはとてもよかったと思います。また、次の学期のクラス編成では日本語初心者と既習者を混ぜないほうがいいです。そのほうが学習において効果的です。</li> <li>• 私はまったく日本語がわからなかったのですが、日本語研修コースはおもしろくて、とても役に立ちました。日本語で自分自身を表現できるようになりました。まだ道のりは長いですが、もっと日本語が上手になると思っています。先生方は一生懸命なので、私の日本語の話す力や書く力は伸びるでしょう。</li> </ul>

<p>(日本語の授業)</p> <p>授業はどうだったか： 5.0</p> <p>教科書はどうだったか： 4.9</p> <p>『みんなの日本語』 4.9</p> <p>『毎日の発音練習』 5.0</p> <p>『漢字だいじょうぶ!』 4.6</p> <p>『J. bridge ジェイブリッジ』 5.0</p> <p>『日本語中級 J301』『J 501』 5.0</p> <p>『中級へ行こう』 5.0</p> <p>ハンドアウトはどうだったか： 4.9</p> <p>教師の教え方はどうだったか： 5.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業がたのしいです。練習がたくさんあります。役に立ちます。</li> <li>• 発音練習はおおくなればいいでしょう。私は日本人と話す時、変な発音ですから。会話の授業はちょっと少ないでしょう。</li> <li>• 私たちはとてもじょうずじゃないですから、先生はとてもつかれた。おつかれさまでした。</li> <li>• 毎日の発音練習のじかんはみじかいです。わたしは発音練習を勉強したいです。</li> <li>• 『漢字だいじょうぶ!』はむずかしすぎて、理解できませんでした。</li> <li>• 授業はとてもおもしろかったです。最初はむずかしかったのですが、後で大丈夫になりました。授業を楽しみました。</li> <li>• 『J. bridge ジェイブリッジ』の先生方は教科書にある練習以上出していただいて、とてもよかったです。『中級へ行こう』の先生方はいつも作文をさせてもらって、とてもよかったです。『日本語中級 J301』『J 501』の先生方は音楽やニュースも教えてくれて、とてもよかったです。</li> </ul>
<p>(テスト)</p> <p>テストはどうだったか：</p> <p>初級・文法テスト 5.0</p> <p>初級・聴解テスト 5.0</p> <p>中級・テスト 5.0</p> <p>テストは多かったか：</p> <p>多い2人、ちょうどいい6人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 聴解はすこし聞こえない。でも、たぶんこれは自分の問題です。</li> <li>• テストはちょうどいい。難度はちょうどいい。</li> <li>• N3 と N2 と N1 のテスト練習がしたいです。</li> <li>• 私のテストの成績はまあまあです。私はせんに「ごめんなさい」といいたいです。ありがとうございます。</li> <li>• テストはよかったが、次の学期では初心者により理解できるように、英語でも説明してほしい。</li> <li>• 毎週、漢字のテストについて悩みました。</li> </ul>
<p>(宿題)</p> <p>宿題はどうだったか： 4.5</p> <p>宿題は多かったか：</p> <p>多すぎる1人、多い3人、ちょうどいい3人、少ない1人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 会話の宿題がほしいです。</li> <li>• とてもよかったです。続けるべきだと思います。</li> <li>• 多い。でも、多すぎじゃない。</li> <li>• 宿題の練習はいいです。多くないですが、難度がいいです。</li> <li>• とときどき宿題は多すぎる感じがしましたが、多分私の準備が悪かったかもしれせん。</li> </ul>
<p>(コンピュータ授業)</p> <p>授業は役に立ったか： 4.9</p> <p>テキストはどうだったか： 4.9</p> <p>教え方はどうだったか： 5.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• はっぴょうはむずかしいですから、私は勉強しています。ありがとうございます。</li> <li>• パワーポイントなど、新しいことが学べて、とてもよかったです。</li> <li>• もっとおおくの内容がほしいです。</li> <li>• コンピュータの使い方をたくさん習いました。先生も親切です。</li> <li>• パソコンで日本語を書くことは慣れていたので、最初の練習は簡単すぎました。発表のじゅんぴのための、コンピュータの授業はとてもよかったです。先生方にいろいろなおしていただきました。</li> </ul>

<p>(特別指導)</p> <p>特別指導はどうだったか： 5.0</p> <p>特別指導は多かったか： ちょうどいい3人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• かわがすきです。ありがとうございます。</li> <li>• 理解できなかったことが勉強できたので、とても役立ちました。</li> <li>• もうちょっと時間が長いほうがいいです。</li> <li>• 会話は上手になりました。</li> <li>• 特別指導はとても少ない。おおくしてほしいです。</li> </ul>
<p>(スタディ・エクサカーション)</p> <p>見学は楽しかったか： はい8人</p> <p>見学場所は適当だったか： はい8人</p> <p>見学の時期は適当だったか： はい8人</p>	<p>何が楽しかったか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 民族文芸がすてきですね。</li> <li>• 日本文化を理解して、友達と先生といっしょに楽しかった。</li> <li>• 日本文化についてたくさん見ました。</li> <li>• 先生と友達はとてもやさしいです。</li> <li>• 先生方と他の学生と遊ぶこと。</li> </ul>
<p>(ホームステイ)</p> <p>ホームステイは楽しかったか： はい8人</p> <p>時期は適当だったか： はい7人, いいえ1人</p>	<p>何が楽しかったか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• たくさんのしみがあります。</li> <li>• 日本人はとても親切です。将来あいさつすることができます。</li> <li>• 日本人の生活を理解しました。</li> <li>• 茶道, きもの, 親切。</li> <li>• 全部。一番楽しかったことは会話でした。</li> </ul> <p>ホームステイの時期について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 試験があつて、ちょっと心配がありましたので、ホームステイの時間は短くしました。</li> </ul>
<p>(日本事情)</p> <p>日本人と一緒に勉強するのはどうだったか：</p> <p>日本の文化を知らなければならないと思うか： 思う3人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 楽しかったです。</li> <li>• とてもおもしろかったです。日本文化の全体や日本の技術まで学ぶことができました。</li> <li>• たのしくて、おもしろいです。</li> <li>• 楽しかった。でも、日本語で話せません。</li> <li>• 素晴らしいです。</li> <li>• よかったです。</li> <li>• 他の日本人に気にされないように、知らなければなりません。</li> <li>• 日本社会に受け入れられるように、ふるまう必要があるからです。</li> <li>• 日本の文化に触れることは貴重な経験になると思います。</li> <li>• その国の人を理解するには、マナーや習慣や考え方を学ぶ必要があります。</li> <li>• 日本の文化を知ったら、日本を理解することができますから。</li> <li>• 日本で長い時間に生活するために、いろいろな面をよく理解したいです。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本の文化はとても重要です。日本でせいこつするとき、たくさん日本人にあわなければならないと思います。それで日本人の習慣や考え方などを勉強すべきです。</li> <li>• 理解するため、いろいろ知らなければなりません。</li> </ul>
<p>(口頭発表プロジェクト)</p> <p>プロジェクトはたいへんだったか： たいへん7人，ふつう1人</p> <p>発表会は役に立ったか： 5.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全部よかったです。準備が大変なのは、いそがしいことだけです。しかし、先生方はいいサポートをしてくださって、私たちは発表ができました。</li> <li>• ぜんぶよかったです。</li> <li>• たいへんな発表でしたが、たくさん習いました。とてもたのしかったです。</li> <li>• 毎日練習します。たくさんのことばをおぼえます。そして、とてもやくにたちました。</li> </ul>
<p>(その他)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本語が上手になった。半年の勉強ありがとうございます。</li> <li>• どうもありがとうございます。私は助けをもらいました。私のまちがいにおいて、私は先生に「ごめんなさい」といいたいです。</li> <li>• このコースはとてもよくできていたと思います。先生方は勤勉で、学生のことをよく把握していました。授業は理論的、かつ実践的で、学生の参加意欲を高めてくれました。</li> </ul>

本コースが役に立ったかという問いでは、第30期は5段階評価の4.7点、第31期は5点と評価が高かった。また、自己の日本語の上達度についての問いにも、全員が「とても上達した」「上達した」あるいは「少し上達した」と答えており、これらの点から受講者のコースに対する満足度は高かったということがうかがえる。しかしながら、スケジュールについては、「ちょうどいい」よりも「忙しすぎる」「忙しい」との回答が上回った。既に実験や研究を開始して忙しい学生もおり、朝から夕方まで続く集中コースでの学習が大変だと感じられたのであろう。

日本語の授業についての問いでは、第30期は4.7点、第31期は5点と高い評価が得られた。また、教科書・ハンドアウト・教師の教え方についても、高い評価が得られた。自由意見では、発音練習を増やしてほしいとの希望や、漢字教科書が難しかったとの評価が見られた。各学習者の日本語能力のレベル差があるため、教科書選定は難しいが、今後検討していく必要がある。

また、テストについても第30期は4.7点以上、第31期はすべて5点と高い評価が得られた。テストの実施回数は6人が「ちょうどいい」と回答したのに対し、3人が「多い」と回答している。一方、昨年度、聴解テストの音声に対する不満が多く見られたが、今年度はあまり見られなかった。しかしながら、テープの経年劣化による音声の聞きとりにくさがなくなったわけではない。今後、聴解テストを改訂しなければならない。

宿題についても、第30期は4.5点、第31期は4.5点と高い評価が得られた。一方で、宿題の量は評価が分かれた。また、会話の宿題がほしいや、教科書の既成の問題ではなく、教員が自作した問題がほしいという希望も見られた。

コンピュータの授業についても、第30期は4.7点、第29期は4.9点と高い評価が得られた。自由意見

では、コース前半のコンピュータ操作（ひらがな・カタカナ・漢字入力等）の練習が多すぎることや、簡単すぎるという指摘があった。その一方で、日本語でのコンピュータ操作や、新しいことを学んだことによる満足度も大きかったようである。口頭発表プロジェクト関しても、第30期は4.7点、第31期は5点と高い評価が得られた。自由意見からも、プロジェクトの意義や有効性を受講者自身が感じ取ることができていると言っているようである。

特別指導については、第30期、第31期ともに点で評価が高かった。昨年度に引き続き、特別指導の時間を増やしてほしいという意見が見られた。

スタディ・エクササイズ、ホームステイ・ホームビジット、日本事情についても全般的に高い評価が得られた。スタディ・エクササイズとホームステイは、日本の文化や習慣を直接体験できる場として、また日本事情の授業は、日本語のクラスで学んだ日本語を実際に運用できる場として、お互いの文化を学ぶ場として、とらえられているようである。

昨年度より、アンケート調査の時期を変更したおかげで、学生から多くの自由意見が得られた。本コースを改善するために、とても有益なコメントであったと言える。

## 8 コース改善に向けて

コース評価および定期テストの点数等を参考に、初級クラス学期末講師ミーティング（第30期は2014年8月5日、第31期は2015年2月19日開催）において、改善策を検討した。話し合いの結果、以下の2点を実施することとした。

### (1) 語彙テストの実施について（第31期より）

語彙を予習してこない学生が多く、その日の学習に影響が出ることもあった。この点は学期途中の講師ミーティングでも検討事項となっていた。そこで第31期からは従来のディクテーションに変え、予習を促す語彙テストを実施することを決定した。問題は合計10問で、二種類の問題形式とした。一つは訳語を見て、それに合う日本語語彙をひらがなで記入する形式である（8問）。その日に学習する課から提出する。もう一つは、前の日に学習した課のディクテーションである。

語彙テストの実施については、第31期の学期末講師ミーティングにおいて、各教員から概ね良好な評価が得られた。「学習者自身が自分のためのチェック（どれくらい覚えているか）に役立っていた。」「（教師の立場から）予習をやってきた学生とそうでない学生が目に見えてよい。」などの意見があった。

### (2) 教室のルールの作成および配布について（第32期より）

日本語能力試験模擬試験におけるカンニング等を踏まえて、教室のルールを作成し、学期の最初に学習者に配布し、説明することとした。

## 9 おわりに

大学院入学前予備教育・日本語研修コースは、2015年3月に第31期生を送り出した。これまでに文部科学省からの配置学生、学内措置による受講者を合わせて194人がこのコースを修了している。

日本語研修コースは、日本語課外補講との合同授業を行ってきた。これまでは単独で授業を行っていた頃よりも授業が活発化するメリットが大きかった。しかし、第31期では学習者の日本語レベル差が大きく、一クラスでは対応できない事態が生じた。今後は、来日までの事前学習（ひらがなの習得）やクラス編成を再検討する必要がある。今後も、国際交流センターの他の日本語プログラムとも連携をとりながら、改善の道を探っていかなければならない。